

# 英語科学習指導案

## 1 単元（題材）名

Presentation2 一日の生活（NEW HORIZON English Course 1）

## 2 考察

### (1) 教材観

#### ① 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

#### ② 主な伸ばしたい(身に付けさせたい)資質・能力

- ・既習事項を生かして、情報を整理しながら英語で表現したり伝え合ったりする力。
- ・英語を読んだり聞いたりして得られた情報を活用して、話したり書いたりして表現する力。
- ・他者を尊重し、聞き手に配慮しながら自分のもっている情報を英語で話そうとする態度。
- ・日常生活を表す慣用表現やその働きを、実際のコミュニケーションにおいて活用できる力。

#### ③ そのために必要な指導・学習活動

- ・小学校の外国語活動では「一日の生活」を英語で伝える活動に取り組んでいる。また”What time do you…?”で友達同士のインタビューも行っている。また、中学校第1学年では「初歩的な表現を使って、自分のことや身のまわりのものを紹介する文を3文程度で書くことができる。」ことを目標に、まとまりのある文章を書く活動を行ってきた。(Presentation1 自己紹介) このことを生かして、本単元では「一日の生活」を3文以上の英文でまとめ、それをもとにして友達同士のインタビューの活動を行う。そこで聞き取った内容をメモし、それを英文でまとめてコラムとして紙面発表をする。
- ・これまでに〔主語＋動詞＋補語〕〔主語＋動詞＋目的語〕といった文構造、人称や指示、疑問、数量を表す代名詞、前置詞、動詞の時制（現在形）は学習して身に付けてきた。これらをもとに、自分自身の生活について、英文で書いたり友達に質問したりし、3文以上のまとまりのある英文を書く活動を行う。

### (2) 児童生徒の実態及び指導方針（31名）

#### ① 本単元に関わる児童生徒の実態

##### 【知識・技能の習得】

自己紹介文を書いたとき、ピリオドが抜けている生徒は8人（24%）、文頭の文字が小文字のままの生徒は4人（12%）いた。英語の文を書くときの正しいルールが定着していない生徒への指導を徹底する必要がある。また、単語の間違いがあった生徒は7人（22%）であり、見直しをする習慣も身につけさせたい。

S V（主語＋動詞）やS V C（主語＋動詞＋補語）、S V O（主語＋動詞＋目的語）の文章はほとんどの生徒が間違えずに書けていた。モデル文を見ながら書いたからだと思われる

が、これを習慣とさせて、正しい英文を書くことを定着させたいと思う。

#### 【思考力・判断力・表現力等の育成】

英語で3文以上の自己紹介を書いたときには、4文書いた生徒は1人（1%未満）、3文書けなかった生徒は4人（12%）いた。ほとんどの生徒が「3文」という条件をクリアできた。動詞のない文を書いている生徒は6人（20%）いた。モデル文があっても意味の伝わらない英文を書く生徒がいるが、80%の生徒は動詞を用いて自分の言いたいことが伝わる英文で書くことができる。ただ、主語+動詞+目的語（補語）のみの英文（例：I play tennis.）がほとんどなので、in the morning や at home といった副詞句を用いるように指導する必要がある。

#### 【学びに向かう力・人間性の涵養】

生徒ほぼ全員に英語の授業で好きな、もしくは得意な活動（「話すこと」や「読むこと」、「聞くこと」、「書くこと」の4技能に関わることや英語でのゲームなど）がある。英語で書かれた文章を読むことや英文を書くこと、英語を話すことを好む生徒は15人（50%）いる。そういったことを好きではない生徒は、英語の歌を聞くことやビンゴといった活動を好んでいる。英語への興味や関心はあるので、さらに多くの生徒が英語の4技能に関わる活動を好んで積極的に取り組めるように指導していく必要がある。

また、授業には意欲的に参加する生徒が多く、毎回挙手をして発言する生徒が半数以上だったり、席を立ってのインタビュー活動を行う際には全員の生徒が進んで取り組んだりしている。新出構文を導入する際には、“Quiz Time”と称してクイズ形式で行うことがよくあるのだが、ほとんどの生徒が活発に参加し、自分で考えた英文を発表している。こういった姿勢を大切に、学習内容の定着や、家庭学習の充実につなげていきたいと考える。

A L Tとのやり取りには消極的で、22人（70%）が苦手と感じている。「何を言っているのかわからない」という先入観や自分の発音の自信のなさ、リアクションの取り方がわからない、といった理由からきている。A L Tが授業に来たときにはA L Tとのスモールトークの時間を設けて1対1で話す機会を作っているが、さらにネイティブの英語に触れられるようにA L Tと協力して今後の指導を考える必要がある。また、教科書には載ってなくても、会話に役立つ表現であれば、積極的に紹介していき、即興的なコミュニケーションにつなげていきたい。

予習やテストを好む生徒が16人（52%）いるので、授業中にそういった考えを称賛して生徒一人一人のやる気につなげて、さらに活気のある活動等にしていきたいと思う。また、そのような姿勢を他の教科に広げて、「主体的に学習に取り組む態度」の育成を図り、学びに向かう力の涵養としていけるようにする。

## ② 指導方針

- ・最終表現活動でどのようなことをするのかを教師がモデルを示すことで、生徒がすべきことを把握できるようにする。
- ・新出語句の練習に様々なパターンで繰り返し取り組むことで、語句の発音に慣れたり、意味を定着させたりし、語句への苦手意識を軽減できるようにする。
- ・新出言語材料の定着を図るために、教科書の本文内容理解や音読練習をする。
- ・ウォームアップとして、本単元の学習事項に関わるやり取りをA L Tと英語で行うことで、授業の内容を想起させたり、活動に役立てたりする。
- ・リスニングやリーディングを通して英語をインプットし、それをスピーキングやライティングでアウトプットにつなげていくことで、情報や意見を交換する多彩で主体的な活動ができるようにする。

### 3 単元の目標

既習の表現を使って、自分の毎日の習慣や一日の生活について3文以上の英文を書いたり、友達に一日の生活について質問して、書いてまとめたりすることができる。

### 4 評価規準

知識及び技能	一日の生活についてのスピーチ構成と、習慣を表す現在形の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 友達の一日の生活について質問したときに、概要や要点を聞き取っている。
思考力・判断力・表現力等	自分や友達の習慣や一日の生活について、3文以上のまとまりで書いている。
学びに向かう力、人間性等	友達と英語でやりとりしているときに、即興的なリアクションの表現を言ったり、友達の一日の生活について積極的に質問したりしようとしている。

### 5 指導と評価の計画（全3時間）

学習過程	時	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価の観点		
				知	思	学
つかむ	1	新出語句の意味を確認して発音練習を行ったり、本文の読み取りや音読練習を行ったりする。 自分の「1日の生活」について、英文で書く。	ピクチャーカードを提示して、本文の内容を理解しやすくする。			○
追究する (本時)	1	インタビューを通して情報収集を行い、コラムの下書きをする。	インタビュー活動を行う際にはフォームを用意することで、スムーズに質問できるようにする。 コラムの例を提示して、どのようなものを書けばいいのか想起できるようにする。	○	○	
まとめる	1	コラムを仕上げ、読み合う。	英文を書くときには、代名詞や時系列を意識させたりして、まとまりのあるものに仕上げられるようにする。		○	

### 6 本時

#### (1) ねらい

日常生活を表す慣用句や、副詞句を用いて、芸能グループを想定したユニット単位でのインタビュー活動を通し、相手の「一日の生活」を聞き取って、3文以上の英文で書くことができる。

#### (2) 準備 教科書 ワークシート タブレット

#### (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導 形態	指導上の留意点及び支援・評価 ◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価
<p>1 T1とT2とのユニットについてのやり取りを聞いたり、モデルのコラムを見たりして、本時のめあてをつかむ。</p>	10	一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">           Today's point            インタビューをして、コラムの下書きをしよう         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○あのユニットの話だな。</li> <li>○インタビューは難しそう。</li> <li>○ALTの先生に自分たちのコラムを読んでもらいたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・T1とT2とのやり取りは、繰り返して話したり画像を見せたりして、生徒にとってわかりやすいものにすることで、活動への意欲を高める。</li> <li>・モデルのコラムを提示して、具体的なゴールがわかるようにする。</li> </ul>
<p>2 インタビューをするための英文での質問を確認する。質問する相手や質問の内容をユニットごとに相談する。</p> <p>○どの質問をしようかな。</p> <p>○これを読めばいいのだな。</p>	10	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなコラムにするのか見通しを立ててから、質問ができるようにする。</li> <li>・インタビューの活動がスムーズに始められるように、想定される質問を英文にしたシートを渡す。</li> </ul> <p>◎どのような質問をするのかをグループで考えることで、低位の生徒もインタビューの活動に参加できるようにする。</p> <p>◎英語の質問が読めない生徒がいることを想定して、T2との音読練習の時間をとる。</p>
<p>3 インタビュー活動を始める。聞き取ったことをメモする。</p> <p>○自分の質問が通じた。</p> <p>○相手の話している英語をメモするのが難しい。</p>	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの返答をメモする際のポイントを、T1とT2とのやりとりを通して具体的に示す。</li> <li>・インタビューの際に”I see.”や”That's interesting.”といったリアクションを即興的に入れられるように促す。</li> </ul> <p>◎質問をしたりメモをとったりするのに戸惑う生徒がいたらサポートできるように、T1とT2で巡回する。</p> <p>◇質問をして返ってきた答えの内容を理解している。【知】（観察・ワークシート）</p>
<p>4 聞き取ってメモしたことを英文にし、下書きを作成する。</p> <p>○正しい英文を書きたい。</p> <p>○間違えたら嫌だな。</p> <p>○3文以上の英文を書くのが大変だ。</p>	17	グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文が正しく書けているかどうか、T1とT2で巡回して確認する。</li> <li>・次時の活動につなげられるように、よく書けている英文があったら称賛して生徒に達成感をもたせる。</li> </ul> <p>◇メモをもとに、正しい英文を書くことがで</p>

			きる。【思】（ワークシート）
5 振り返りをする。	3	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の授業で身についたことを確認したり、今後の活動に向けて意欲が高められたりできるようにする。</li> </ul>
<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・” I see.” や” That’ s good.” といった表現をALTの先生との会話でも使ってみたい。【言語面】</li> <li>・” What time~?” や” What do you do~?” を使って、具体的なことを質問することができた。【内容面】</li> </ul>			

## 7 板書計画

Today's point

インタビューをして、コラムの下書きをしよう

班の写真

班の写真

班の写真

班の写真

班の写真

班の写真

使ってみよう

I see.

That's good (nice cool  
great interesting).

Pardon?

Really!